

## 講演者プロフィール

## Speaker Profile

タチモト ナリフミ  
**立本 成文**

人間文化研究機構 機構長

京都大学名誉教授。総合地球環境学研究所名誉教授。京都大学文学部哲学科社会学専攻卒業。シカゴ大学大学院社会科学研究所人類学修了(哲学博士)。マラヤ大学日本学講座客員講師、京都大学東南アジア研究センター助手、助教授、教授、所長を歴任。2002年中部大学国際関係学部教授、2007年人間文化研究機構総合地球環境学研究所所長を経て、2014年より現職。外務省在インドネシア大使館一等書記官(1977～79年)、文部省学術国際局科学官(1991～98年)。著書に『地域研究の課題と方法: 社会文化生態力学』(京都大学学術出版会)、『共生のシステムを求めて—ヌサンタラ世界からの提言』(弘文堂)など。

キベ ノブコ  
**木部 暢子**

国立国語研究所 副所長/教授

九州大学大学院文学研究科国語学国文学専攻修士課程修了。1998年九州大学にて博士(文学)取得。1988年鹿児島大学法文学部助教授、1999年同教授を経て、2010年より現職。著書に、『じゃっで方言なおもしとか(そうだったんだ! 日本語)』(岩波書店)、『方言学入門』(共編著、三省堂)、編著に、『災害に学ぶ 文化資源の保全と再生』(勉誠出版)など。日本学術会議 第23期、第24期委員を務める。

サトウ ヨウイチロウ  
**佐藤 洋一郎**

人間文化研究機構 理事

1977年 京都大学農学部卒業、1979年 京都大学大学院農学研究科修士課程修了、1981年 京都大学大学院農学研究科博士課程中退、1986年 京都大学農学博士取得、1981年 高知大学農学部 助手、1983年 国立遺伝学研究所 研究員、1994年 静岡大学 助教授、2003年 総合地球環境学研究所 教授、2015年より現職。著書に『稲の日本史』(角川選書)、『DNAが語る稲作文明』(NHKブックス)『食の人類史 ユーラシアの狩猟・採集、農耕、遊牧』(中公新書)など。

フジ イ リョウイチ  
**藤井 良一**

情報・システム研究機構 機構長

1974年 東京大学理学部地球物理学科卒業、1976年 東京大学大学院理学系研究科地球物理修士課程修了、1981年 理学博士号取得(東京大学)、1977年 国立極地研究所助手、1992年 名古屋大学太陽地球環境研究所助教授、1995年～2016年 名古屋大学太陽地球環境研究所教授、2005年～2009年 太陽地球環境研究所所長、2009年～2015年 名古屋大学理事・副総長、2016年 情報・システム研究機構理事を経て、2017年4月より現職。2008年3月～ノルウェー科学・文学アカデミー会員、2014年10月～日本学術会議会員(23-24期)。専門は太陽地球系科学(電磁気圏物理学)。

サイトウ ナルヤ  
**斎藤 成也**

国立遺伝学研究所 教授

1979年東京大学理学部生物学科人類学課程卒業。1981年東京大学大学院理学系研究科人類学専攻修士課程修了(理学修士)。1986年テキサス大学ヒューストン校生物学医学大学院修了(Ph.D.)。1989年東京大学理学部生物学科助手、1991年国立遺伝学研究所助教授を経て、2002年より現職。専門はゲノム進化学、人類進化学。

カタ オカ リュウホウ  
**片岡 龍峰**

国立極地研究所 准教授

1976年、宮城県仙台市生まれ。2004年、東北大学大学院理学研究科博士課程修了。博士(理学)。情報通信研究機構、NASAゴダード宇宙飛行センター、名古屋大学太陽地球環境研究所で学振特別研究員、理化学研究所基礎科学特別研究員、東京工業大学理学研究流動機構特任助教を経て、現在、国立極地研究所准教授。専門は、宇宙空間物理学。2015年、文部科学大臣表彰 若手科学者賞受賞。著書に『オーロラ!』(岩波書店)、『宇宙災害』(化学同人)がある。

機構合同シンポジウム

第32回人文機構シンポジウム/情報・システム研究機構シンポジウム

# 人文知による 情報と知の体系化 ～異分野融合で何をつくるか～

日時

2018年(平成30年)

2月26日月

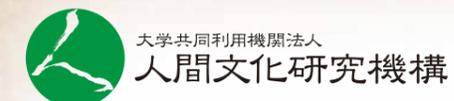
13:30▶17:10 (開場13:00)

場所

一橋講堂

〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋2-1-2  
学術総合センター内

主催/人間文化研究機構、情報・システム研究機構 後援/文部科学省



## ごあいさつ

## Message



人間文化研究機構 機構長  
**立本 成文**

人間文化研究機構は、人類が過去の営みの中で蓄積してきた生きるための知恵、知識を人文知と呼んでいます。

21世紀の人類は、資源の枯渇、異なる宗教や価値観を持った文化間の対立の激化(21世紀問題)に直面しつつあります。文字通り人類の生存そのものが危機に瀕する世紀になるかもしれません。この危機を脱するために学術の世界にできることは何か。こうした問題意識から、人間文化研究機構と情報・システム研究機構は2017年に「連携・協力の推進に関する協定」を締結し、今までの研究組織の枠を突き破り、分野の違いを越えた新たな文理融合研究を推進する体制を整えました。

今回のシンポジウムでは両機構の機関の間で展開してきた研究の成果をご紹介します。とくに過去のものに関するデータ、できごとに関する記録を多角的に研究することで、どのような世界がみえるようになったのかをご紹介します。

科学技術の進歩だけで21世紀問題の解決はあり得ません。人間文化研究機構は、科学技術もまた文化の一部であるとの立場から「人間文化の学」を推進してきました。情報・システム機構との連携により学術の新次元を創出することで、さらに一歩踏み込んだ人間文化の知、人文知をみていけたらと思っています。そうすることが、21世紀問題の解決に役立つだろうと思うからです。



情報・システム研究機構 機構長  
**藤井 良一**

今、私達は変革の時代をまさに目の当たりにしています。情報通信技術の急速かつ飛躍的な発展、多種多様なビッグデータの出現、計算性能の急激な向上は、社会を変容させ、研究環境を大きく変化させています。

昨年度、当機構は、データ共有・統合・解析手法の開発を担うデータサイエンス共同利用基盤施設を設置しました。また、人間文化研究機構と当機構は、このデータサイエンス共同利用基盤施設を通じて、相互の連携・協力による共同研究を行ってまいりました。

本年度、人間文化研究機構と当機構は、連携・協力の推進に関する協定を締結し、人間文化研究機構が持つ膨大かつ貴重な資料と、情報・システム研究機構が得意とするデータ解析・利活用技術とを提供し合うかたちで、文理融合研究をさらに進めていくことを確認し合いました。今回の連携・協力の推進に関する協定の締結を機に、両機構は、今回のシンポジウムでご紹介するような共同研究を通じて、さらに新たな知の開発、異分野融合、新領域の創出を推進してまいります。

本シンポジウムによって、当機構が、文と理にまたがる多様な分野で興味深い、先進的な研究に取り組んでいることを実感していただきたいと思います。

## プログラム

## Program

13:30

開会宣言

総合司会

来賓挨拶

西井 知紀氏 文部科学省研究振興局 学術機関課長

13:35

基調講演

人文知から観た文理融合

立本 成文 人間文化研究機構 機構長



立本 成文

14:15

事例紹介 1

ヒトゲノム情報の革命がもたらした  
日本列島人史研究の新展開

斎藤 成也 国立遺伝学研究所 教授



斎藤 成也

14:45

事例紹介 2

言語調査における連携・協力  
～八丈島・岡崎市・鶴岡市などの調査から

木部 暢子 国立国語研究所 教授



木部 暢子

15:15

休憩・ポスター展示

15:35

事例紹介 3

オーロラと人間社会の過去・未来・現在

片岡 龍峰 国立極地研究所 准教授



片岡 龍峰

16:05

パネル討論

パネリスト	藤井 良一	情報・システム研究機構 機構長
	斎藤 成也	国立遺伝学研究所 教授
	木部 暢子	国立国語研究所 教授
	片岡 龍峰	国立極地研究所 准教授
モデレーター	佐藤 洋一郎	人間文化研究機構 理事



藤井 良一



佐藤 洋一郎